

製品名: T2R13 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18559**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	TAS2R13
別名	TAS2R13; Taste receptor type 2 member 13; T2R13; Taste receptor family B member 3; TRB3
遺伝子 ID	50838.0
SwissProt ID	Q9NYV9
免疫原	抗血清はヒト TAS2R13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 123-172

背景

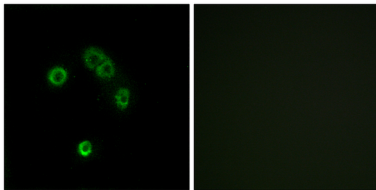
この遺伝子産物は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーのメンバーである候補味覚受容体ファミリーに属します。これらのタンパク質は、舌と口蓋上皮の味覚受容体細胞で特異的に発現しています。これらはゲノム中にクラスターとして組織化されてお

り、マウスとヒトの苦味知覚に影響を与える遺伝子座に遺伝的に連鎖しています。機能発現研究では、苦味物質に反応します。この遺伝子は、染色体 12p13 の味覚受容体遺伝子クラスターにマッピングされます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能:苦味の知覚に役割を果たしている可能性があり、ガストデューションに関連する受容体。消化管内容物の化学組成を感知する役割を果たしている可能性があります。この受容体の活性は、 α ガストデューションを刺激し、PLC- β -2 の活性化を媒介し、TRPM5 のゲーティングにつながる可能性があります。、その他:ほとんどの味覚細胞は、限られた数の苦味化合物によって活性化される可能性があります。個々の味覚細胞は苦味刺激を区別することができる。、類似性:G タンパク質共役受容体 T2R ファミリーに属する。、組織特異性:舌と口蓋上皮の味覚受容体細胞のサブセットで発現し、ガストデューション陽性細胞でのみ発現する。、

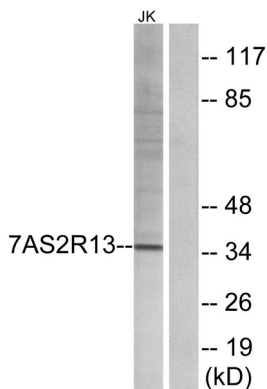
研究分野

味覚伝達;

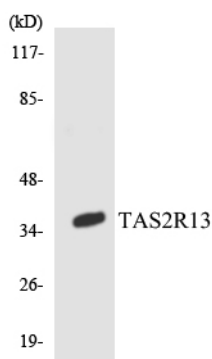
画像データ



TAS2R13 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



TAS2R13 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



TAS2R13 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。